

1 学校教育目標と研修主題

<学校教育目標>

「夢中」と「笑顔」で共生社会を生きるひと

<研修主題>

「夢中」になって取り組み、できた喜びに「笑顔」輝く授業づくり

<授業づくりの重点>

<p><令和3年度> 「夢中」になれる 展開の工夫</p>	<p><令和4年度> 「笑顔」輝くための 導入の工夫</p>	<p><令和5年度> 「できた喜び」を感じ、 学びを広げるための まとめ・振り返りの工夫</p>
---	--	--

2 研修主題と授業づくりの重点について

(1) 研修主題に込められた思い

本校は、昭和49年の開校時から「自分から精いっぱいがんばる人を育てるために」を研究主題に揚げ、知的障害教育校としての実践に取り組んできた。当時は、教育課程や教育方法を模索する中で、何が最も急務な研究目標であるかが議論され、その結果、すべてのことに「精いっぱいがんばる」子どもを育てようという結論に達した。『精いっぱいがんばる』ことが、自己の潜在能力を顕在化し、精神的にねばりのある強い人を育てることになる。ひいては学校という集合の有機体を作りあげる（研究紀要1より抜粋）という先人たちの精神は、本校の合言葉である「みんなと仲よく、明るく元気に、せいっぱいがんばるひと」に受け継がれている。

令和3年度から、学校教育目標『夢中』と『笑顔』で共生社会を生きるひとの実現に向けて、研修主題を「『夢中』になって取り組み、できた喜びに『笑顔』輝く授業づくり」と設定した。

目標や目的をもち、最後まで思い切り活動に取り組む姿を「夢中」、学習の中で主体的に様々な力を身に付けたり、発揮したりすることで「できた」を感じる姿を「笑顔」と捉え、せいっぱいの「夢中」と「笑顔」の姿を引き出す授業づくりを通して、児童生徒一人一人の自立と社会参加の実現に向けた実践を行っていく。

(2) 授業づくりの重点について

「夢中」と「笑顔」の授業づくりを目指す中で、年次ごとに授業における要素をクローズアップし、令和3年度は「展開の工夫」、令和4年度は「導入の工夫」、令和5年度は「まとめ・振り返りの工夫」というように重点を置く。

令和3年度は重点を「『夢中』になれる展開の工夫」とした。実践を通し、単位時間内の授業展開だけでなく、単元全体の構成や展開に目を向け、児童生徒がその授業の目標に向かうための道筋や流れ（思考、活動）をスムーズにしたり、学びを効果的にしたりす

る（学びを深める）ための教師の支援を「展開の工夫」として捉えることができた。

令和4年度は、『笑顔』輝くための導入の工夫を重点に、「なぜ？なんのために？（授業の目的）」「どうなればよいか？（その授業の目標）」「どうすればよいか？（その授業の見通し、やり方）」を導入のポイントとして授業づくりを行った。授業に際し、明確な動機付けや目標の焦点化を図るとともに、児童生徒が主体的かつ活発に学習に取り組むための工夫をしながら実践を行う中で、「導入の工夫」を、児童生徒がこれまでの活動を振り返るとともに、これからの活動に見通しをもち、やる気や期待感を高め、目標に向かって主体的に取り組むための教師の支援として捉えることができた。加えて、導入を生かすための展開や、次の授業の導入につながるまとめの大切さにも気付くことができた。

このように「展開」「導入」という授業の構成要素について研修を進める中で、児童生徒が期待感や目的意識をもって授業に向かうだけでなく、その授業に充実感を感じ、次の学習への意欲や期待を高める場面の重要性を再認識することができた。さらに、「導入」で投げ掛けた学習課題を、「展開」での活動をとおして、児童生徒のどのように学び、どのような姿につながったか、そして、どのように振り返り「できた」を実感できたかという教師の見取りや共通理解の大切さに気付くことができた。これらのことから、今年度は授業づくりの重点を『できた喜び』を感じ、学びを広げるためのまとめ・振り返りの工夫とする。3か年計画の3年目として、これまで取り組んだ「展開の工夫」「導入の工夫」を生かしつつ、児童生徒が自分自身で「できた喜び」やその授業での学びを実感できるように、そして、学びを深め、次の学習や他の場面に生かし、広げられるような「まとめ・振り返りの工夫」について考えながら、より魅力ある授業づくりを行いたい。

(3) 「目指す姿」について

「夢中」と「笑顔」を引き出す授業づくりを通して、目指したい児童生徒の様子を学部ごとに「目指す姿」として設定する。一時間、一単位における児童生徒の「夢中」と「笑顔」を積み重ね、「目指す姿」の実現を図っていく。

学部	目指す姿
小学部	分かって「やろう！」と取り組む姿
中学部	自ら働き、満足感を得る姿
高等部	働く喜びを感じる姿

3 今年度の取組

(1) 全体研修

年間3回行い、全職員で学校全体の研修の取組や方向性について共通理解する。

(2) 授業づくり

ア グループ研修

研修主題と授業づくりの重点を踏まえて、学部ごとの研修テーマを設定し、PDC Aサイクルに基づいた授業研究を行う。窓口となる授業は、各教科等を合わせた指導とする。

学部	各学部の研修テーマと窓口となる授業	
小学部	「分かって『やろう！』と取り組む姿」を 目指した授業づくり	遊びの指導 生活単元学習
中学部	「自ら働き、満足感を得る姿」を目指した授業づくり	作業学習
高等部	「働く喜びを感じる姿」を目指した授業づくり	作業学習

イ 授業研究会

各学部で年間2回の授業研究会（うち1回は公開授業研究会とする）を実施する。学部ごと助言者（外部講師）を招聘し、指導助言を授業改善や授業力向上につなげる。

授業者は各学部で設定をする。

令和5年度 助言者	
小学部	静岡県立掛川特別支援学校 梅原 隆史 先生
中学部	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 齋藤 香 先生
高等部	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校 佐藤 貴志 先生

(2) 職員研修

教師の専門性を高め、児童生徒理解に基づく「夢中」と「笑顔」の授業づくりを目指し、以下のような職員研修を実施する。

ア 静北版OJT研修

校内においてメンターとメンティを設定したOJT研修を実施する。学校のあらゆる場面で「教師の『技』」（教育技術）を伝え合うことで、専門性の共有や蓄積を図るとともに、「教え、教えられること」により、教員一人一人の力量の向上を目指す。

年次別研修対象者（2、6年次）は、学部主事、学年主任、中堅研対象者といったメンターと、日常的な「技」の伝え合いとともに、研究授業の実践を通して授業力の向上を図る。

イ 夏のOJT研修

中堅研対象者を中心とした講師が、校内職員に向けた自身の経験に基づく講座を開講する。

ウ 年次別研修者を中心とした授業研究

窓口以外の授業研究についても、積極的に教員の参観を促し、授業者及び参観者相互の授業力の向上を図る。